

看護学校自己点検・自己評価（令和元年度）

I 学校評価の目的

学校評価は、奈良県立病院機構看護専門学校が、学校活動全般について、自己改革を行い、教育の質の向上、および学校の設置目的を達成するために行う。

学校評価は、教育機関としての機能を包括的に判定する「学校運営評価」と、学生及び教員による教育方法と内容の評価である「授業評価」と、学生の満足度からなる「学生満足度調査」からなっている。

II 学校運営評価

教職員 21 名により、質の高い魅力ある学校づくりに資することを目的に評価を実施した。評価項目は「I 学校経営」「II 教育課程・教育活動」「III 入学・卒業対策」「IV 学生生活への支援」「V 管理運営・財政」「VI 施設設備」「VII 教職員の育成」「VIII 広報」「IX 地域との連携」とし、評価基準は、非常にあてはまる：4、かなり当てはまる：3、あまり当てはまらない：2、まったく当てはまらない：1の4段階とした。

結果は、総平均が 2.87 であった。評価の高い分野は、「III 入学・卒業対策」が 3.18、「II 教育課程・教育活動」2.98、「IV 学生生活への支援」と「VI 施設設備」が 2.95 であった。一方、評価が低かったのは、「IX 地域との連携」2.15 「I 学校経営」2.68 であった。（図 1）

高評価の「III 入学・卒業対策」では、卒業生の県内就職率（92.4%）をはじめ、全員の進路が決定したこと、1 年次より国試対策に取り組み、第 109 回看護師国家試験は 98.7%の合格率であったこと、応募者確保のため、オープンキャンパスの回数を増やしたことや、訪問する高校の数を増やしたことが効果的であったと判断する。また、中途退学者を少なくするため、欠席や遅刻が増えたなど、学生一人ひとりの変化に注意を向け、声かけをしたり、面接を行ったりしたことが高得点になったと考える。

低評価となった「IX 地域との連携」については、「ふれあい祭り」や「災害訓練」などを通じた交流を図っており、また、大和川清掃活動等の活動も取り入れているが、今後は地域をまきこんでの危機管理体制を整える計画も必要と考える。

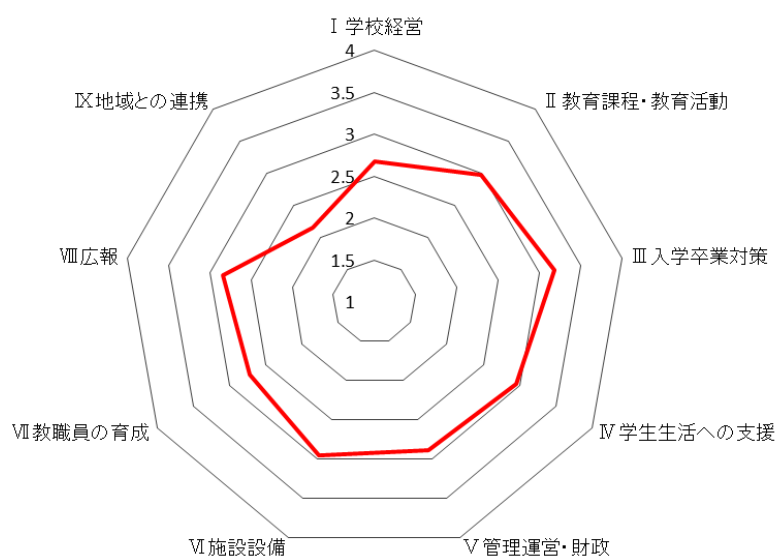


図1 学校運営評価 n=21

Ⅲ 授業評価

「授業評価」は、学生による授業評価を行い、評価結果に基づいて授業内容や方法の改善を図る目的で、各教科最終授業後にアンケート調査を行った。評価は、非常にあてはまる：4、かなり当てはまる：3、あまり当てはまらない：2、まったく当てはまらない：1の4段階とした。(表1)

注目すべき項目は「①この授業全体の意見や目的が理解できるようにしめされましたか」「⑪あなたはこの授業に意欲的にとりくみましたか」「⑫この授業から新しい知識・考え方や技術・技能を得られましたか」「⑭あなたはこの授業を受講して良かったと思えますか」で、各々が3.4と高い結果であった。学生の授業に対する満足感が高いと考える。

表1

令和元年度 授業科目アンケート集計表

	①この授業全体の意見や目的が理解できるようにしめされましたか	②毎回の授業で具体的な目標が理解できるようにしめされましたか	③シラバスは、学習を進める上で役立ちましたか	④授業の進度についていけましたか	⑤教員の話し方は明確で聞きやすかったですか	⑥板書や機材を用いた説明の仕方はわかりやすかったですか	⑦補助教材(教科書・プリント・ビデオ等)はわかりやすかったですか	⑧質問や意見を述べる機会がありましたか	⑨あなたはこの授業の内容をよく理解できましたか	⑩この授業のために予習・復習を十分に行いましたか	⑪あなたはこの授業に意欲的にとりくみましたか	⑫この授業から新しい知識・考え方や技術・技能を得られましたか	⑬この授業に関するお尋ねへの興味や関心が強くなりましたか	⑭あなたはこの授業を受講して良かったと思えますか	平均
基礎分野 平均	3.2	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	2.9	3.2	3.3	3.2	3.3	3.1
専門基礎分野 平均	3.3	3.2	3.0	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	3.3	3.2	3.3	3.2
専門分野Ⅰ 平均	3.6	3.6	3.2	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.3	3.6	3.7	3.6	3.7	3.5
専門分野Ⅱ 平均	3.4	3.4	3.1	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.3	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4
統合分野 平均	3.4	3.3	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3
平均	3.4	3.3	3.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.1	3.4	3.4	3.3	3.4	

Ⅳ 学生満足度

「学生満足度」は、よりよい学校づくりの基礎資料とするためアンケート調査を実施した。評価基準は、非常にあてはまる：4、かなり当てはまる：3、あまり当てはまらない：2、まったく当てはまらない：1の4段階とした。2月17日にアンケート用紙を在校生225名に配布し、有効回答数は220名(93%)であった。

A) 学校教育について

「学校の教育理念を知っている」2.99、「法人の理念を知っている」2.96と理念について知っていると答えた学生が多かった。今年度から理念を掲示し、職員・学生に周知するようにした。また、折に触れ、説明したことで効果があったと考える。

B) 授業について

11項目の平均は2.84であった。項目別では「専門的な知識が身につく授業が多い」が3.33と高かった。低かった項目は「やる気がでる授業が多い」2.42であった。昨年度より0.03ポイント上昇しているが、難易度やレディネスの関係もあり、進度を考慮し、時間割を調整する必要があると感じる。更に参加型授業で協同学習は学習効果が上がっているため、もっと授業に取り入れるようにしていきたい。

C) カリキュラムについて

満足度は2.83であった。「演習形式の授業は学びが多い」3.17、「臨地実習は内容が充実している」3.14と高かった。看護は臨地実習での学びが大きく、満足度も高いので、学校と実習施設が連携し、より充実した学習ができるよう体制を整えていきたい。

D) 教員について

全体の満足度は2.97であり、「学問分野の専門家として優れた教員が多い」3.12、「授業中、学生の質問や意見に適切に対応してくれる教員が多い」3.11と学生の満足度は高かった。

E) 学生支援システムや各種サポートについて

学生の満足度は最も低い項目であった。「学校祭へのサポート体制が整っている」2.39と低い。2年生が中心で学校祭をおこなっているが、学生間の協力が難しい状況であるとする。同学年の学生間の交流や学年を越えた交流を増やしていきたい。

F) 学生生活全般について

「校内の美化が行き届いている」3.17であり満足度は高かった。「演習室の環境は整備されている」3.19「図書室は学習しやすい環境である」3.15と、学習環境は整備されているといえる。

G) 進路・就職サポートについて

全体の満足度は2.90であった。「国家試験対策のための指導は充実している」が2.95であり、満足度は高かったが、昨年より下がっている。1年次からの継続した関わりと学生一人ひとりに応じた指導をより一層、強化していきたい。

H) その他

「一人ひとりの学生を大切にしている」が2.86であり、昨年より0.09ポイント上がっている。本校の教育理念にあるように、学生が仁と愛の心を持って、これからも看護専門職として成長し続けられるように、一人ひとりを大切に育成していきたい。

V 総評

令和元年度は外部評価者を含めて、学校関係者評価を行った。学生の向上心や創造性をかき立てる学習内容や環境を作り出す必要を感じた。学校自己点検・自己評価では、良

い点もあったが、課題もわかった。強みは更に伸ばし弱みは改善をして、学校の質の保証・向上に努めていきたい。更に教育環境のすべてが、良い方向に向上するよう教職員一同、協力し努力していく。